

笹川記念保健協力財団 奨学金支援

助成番号：2017-

(西暦) 2018年 3月 16日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

会長 喜 多 悦 子 殿

2017年度奨学金支援

完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

記

所属機関・職名 札幌市立大学大学院看護学研究科 前期博士課程

氏名 藤井 美南子

2017 年度 奨学金支援 完了報告書

1. 修学計画と達成状況

年間の修学の目標：

- ・複雑で困難な健康課題を抱えるがん患者への包括的かつ個別的な高度看護実践を行う
- ・高度看護実践と理論・科学的知見の融合を行基礎的な調査・研究能力の習得

修学計画：

生活上の事由により、本年度開始後に履修期間を 2 年から 3 年へ変更することと致しました。よって本年度は下記授業科目を履修と、修士論文の研究計画を立案することを履修計画としておりました。

○がん看護学演習Ⅱ、がん看護特論Ⅱ、がん看護学実習Ⅱ、課題研究（2 年継続）

達成状況：

がん看護学特論Ⅱ…がん患者の持つ身体的、心理的、社会的、そして霊的特性ととりまく環境の理解。がん看護における重要な理論の学修。

がん看護学演習Ⅱ…がん看護の高度看護実践の知識基盤と科学的根拠に基づいた実践の展開を学修。具体的内容としては、倫理的看護実践、意思決定支援、治療期にあるがん患者の理解、がん患者の対処、スピリチュアルペインへの看護、ターミナルにある患者の苦痛へのケア、終末期にあるがん患者の家族へのケア、がん患者におけるエンドオブライフ、がん患者の包括的理解について、理論や尺度を用いた事例分析をもとに最新の知見と実践の融合を学んだ。

がん看護学実習Ⅱ…がん看護専門看護師の 6 つの役割について実践し、課題と対策の明確を行う。

課題研究（修士論文）…がん化学療法に伴う外見の変化を有する患者の社会的 QOL との関連について調査を行っている。

2. 今後の自己研鑽、修学について

次年度は現在取り組んでいる課題研究を継続し修士論文を完成、学位取得を達成する。また臨床現場に所属し、高度専門教育を受けた職業人として実践の場で役割を担う。

3. 謝辞

2017 年度奨学金支援をいただき、修学に専念することができました。また、多くの学会や勉強会に参加することができ、視野を広げることにつながりました。この 1 年間で学んだことを来年度に活かし、がん看護専門看護師になるために一層研鑽を積んでいきたいと考えております。ご支援いただき、心より感謝申し上げます。